

あとがき

三木義一先生は、本年5月3日にめでたく古稀を迎えられます。本論文集は、三木先生が古稀を迎えられるにあたり、その祝意と感謝の意をこめて、ご指導を受けた研究者や実務家、長年親交のあった研究者の先生方にご協力いただいで刊行されたものです。

三木先生は、45年以上もの長きにわたり、わが国の税法研究の第一線で活躍されてこられました。その間、ドイツ税法の基礎的概念の再検討により税法と憲法の架橋を図られた一連のご業績をはじめ、本論文集の巻末にその一部を紹介させていただいたように、大変多くのご著作や論文、判例評釈などの研究業績を残されてきました。そのご研究の対象は、実体法から手続法まで幅広く、所得税法や法人税法、相続税法などの国税から地方税法を含み、従来税法分野の中でもあまり法的検討の対象にされてこなかった、酒税法や消費税法など間接税についても先駆的な研究業績を公表されてきました。また、受益者負担金制度をはじめ土地法制と土地税制や、税法と民法や会社法など私法との接点に関するご研究などにも取り組まれてきました。さらに、ドイツのミュンスター財政裁判所の客員裁判官をつとめられたご経験や実務界との密接なご関係から、税務訴訟にも積極的に関与され、多くの関連の論文、判例評釈や鑑定意見書なども執筆されてきました。

このように三木先生は、研究面でわが国の税法研究を代表する研究者のお一人として多大な貢献をされてきた一方、静岡大学で14年間、立命館大学で16年間、青山学院大学で9年間と約40年もの間、大学教員として多くの学生や大学院生を熱心に指導されてこられました。学部や大学院のゼミや講義では、学生や大学院生との対話を重視しながら、いち早くディベート教育を採り入れられるなど、学生や大学院生の法的思考力やコミュニケーション能力の養成に取り組む、教育面でも大きな成果をあげられてきました。ご指導を受けた者の多くが、研究者や裁判官、弁護士、税理士を中心に学界や実務界など多方面で活躍しています。また、税法の面白さを学生や大学院生にわかりやすく伝えるべく、『よくわかる税法入門』（有斐閣、初版2001年）をはじめ多くの教科書や教材

を出版されてきました。そのほか、弁護士や税理士を中心に実務界との密接なご関係から、実務家のための一連のご著作の執筆や編集・監修に加え、弁護士会や税理士会などの研修会や勉強会の講師をつとめられるなど、実務家の支援や教育にも尽力されてきました。

三木先生は、大学行政でも立命館大学や青山学院大学において、大学院教育の見直しなどに取り組み、2015年12月から4年間青山学院大学学長として大学全体の改革にも手腕を振るわれました。また、学外の公益活動では、2010年3月に政府税制調査会の専門家委員会委員に就任され、納税環境整備小委員会座長として、更正の請求期間の延長や税務調査手続の見直しなど、平成23年の国税通則法改正に大きく貢献されました。2015年には共同代表として「民間税制調査会(民間税調)」を立ち上げられ、民間の立場から税制に関する情報発信や政策提言を行っておられます。さらに、最近では、税制の問題や税法の面白さを一般にもわかりやすく伝えるべく、新書の刊行や新聞での連載などに加え、税制のご意見番としてメディアでも活躍されておられます。

ここに本論文集を献呈するにあたり、三木先生が古稀を迎えられますことを、執筆者一同とともにあらためてお祝い申し上げます。先生がこれからも奥様とともに、お嬢様方やお孫さんたちに囲まれて、ますますご壮健に研究や教育など多方面で活躍されることを深く祈念いたし、引き続き我々後進の者にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、ご多忙な中、貴重なご論文をご寄稿いただきました執筆者の皆様には重ねて厚く御礼申し上げます。また、本論文集の出版をお引き受けいただいた株式会社法律文化社の田麿純子様と編集実務担当の徳田真紀様には、企画段階よりいつも適切なお助言と丁寧にご対応いただきましたことを深く感謝申し上げます。

なお、本論文集の刊行に際し、公益財団法人租税資料館より出版助成をいただきました。同資料館に心より御礼を申し上げます。

2020年4月吉日

三木義一先生古稀記念論文集編集委員会

伊川正樹・奥谷健・望月爾・安井栄二